

2000年度ジンバブエ地域社会調査（予備調査、農業経済調査） 結果の分析・考察

岩 淵 剛

要 旨 1999年末に、ジンバブ大学の研究者たちと日本の研究者たちとの間で「日本、ジンバブエ国際共同学術調査研究プロジェクト」をはじめから、ほぼ3年になる。ジンバブエ共和国の農村社会において、就学困難を抱える子どもたちの親および家庭の経済的社会的困難の実態を把握し、有効と思われる対応策を考えようというわけである。調査は「教育・農業調査」であるが、やっと進みだして得られたデータの一部「小規模農民」のデータについて、分析・考察しようとしたものである。

はじめに

本調査は、1999年末に、1994年から名古屋市に本部を置くNGOを通じてジンバブエ共和国経済社会開発援助に関わってきた岩淵によって構想され開始されることになった。このNGOは、13年間の主としてアフリカ諸国に対する様々な援助物資支援活動を通じて、就学困難を抱える貧しい子ども達とその親達の経済的・社会的条件の改善を援助することに努めてきた。（注1）

しかし、この援助活動を通じて明らかになったのは、何が原因で子ども達の就学困難が生じるのか、農村地域の場合、何が原因で子ども達が学校に行けないあるいは学校を中退せざるを得ないといったことがおこるのか、農業経営上のどんな問題があるのかといったことを、もっと詳しく調べてみる必要があるということであった。（注2）

そのため、ジンバブエ大学教育学部教授マタンボ博士に、「日本ージンバブエ国際共同学術調査」プロジェクトの結成を申し入れた。マタンボ教授は岩淵の提案を快く受け入れ、ジンバブエ大学の研究者をこのプロジェクト協力者として迎える努力をすること、岩淵は日本でそのような日本人の研究チームを結成することを約束した。そして、「ジンバブエ地域社会国際学術調査協会（The Association for International Scientific Research of Zimbabwean Rural Areas）」を結成することになった。その後、2000年3月に現地を訪問した際、ジンバブエ側はマ

タンボ教授を含めて4名（その後ジンバブエ側の参加者は1名増えて5名である）、日本側は岩淵を含めて6名（その後1名が加わるが、1名が病死して、日本側の総数は6名のままである。）がこのプロジェクトにかかわることになったことを確認した。同時に組織形態としては、「協会」を二つに分け、ジンバブエには「ジンバブエ地域社会学術調査ジンバブエ協会（Zimbabwean Association for Scientific Research of Zimbabwe's Rural Areas）」を、日本側には、「ジンバブエ地域社会学術調査日本協会（Japanese Association for Scientific Research of Zimbabwe's Rural Areas）」を作り、ジンバブエ協会の会長にはマタンボ教授、日本側会長には岩淵が就任することになった。（注3）

とりあえず、1999年末段階で岩淵が作成した調査プロジェクト概要と「調査用紙（案ーこれは、ジンバブエ側の研究者・識者によって、部分的な修正が加えられた物が最終的に使用されることになった。調査用紙は3部から成り、第1部「フェースシート」第2部「教育調査」第3部「農業経済調査」である。）」をもとに、「2000年予備調査」が計画された。その概要はつぎのとおりである。調査地点は、岩淵が関わってきたNGOが援助活動に取り組んできた、ジンバブエ中西部のカドマ市周辺地域と南部マシング州マシャバ村マスンダ北地域である。調査対象は、子ども達が就学困難を抱える父母等で、主として「農業労働者」「小作農民（共同体農民）」「小規模農民」を調査対象者にすることになった。それに該当

する面接調査対象者を、調査用紙を持った面接調査員（カドマ地域は市内のチェドンジ小学校教員及びマーティンスパー小学校教員、マスンダ北地区は同小学校の教員である。）が訪問し、聴取した回答を調査員が調査用紙に記入する方法により実施することにした。（注4）

しかしその後、2000年6月の国会議員選挙、2002年3月の大統領選挙と続くジンバブエ国内政治の不安定・経済情勢悪化のもとで、「2000年予備調査」の実施は延び延びになってきた。ところで2001年6月末～7月はじめにかけて、カドマ地域マスンダ北地域両地域で、ジンバブエ大学教員も参加して、調査用紙第1部及び第2部を使用した調査が実施された。ところがジンバブエ「協会」に組織上の困難が生じ、あわせて実施された調査用紙の一部が行方不明になり、十分な集計が出来ないままで今日に至っている。（注5）

2002年8、9月に岩淵がジンバブエに滞在した折、両地域で延び延びになってきた「2000年予備調査」を実施するとの約束が、それぞれの小学校長と関係教員との話し合いの中でなされた。調査の目的、内容、留意点などは、「マニュアル」をもとに岩淵が直接調査員である小学校教員達に説明した。マスンダ北地域からは、実施された調査用紙が返送されてきたが、カドマ地域では実施されているとの報告はあるがまだ調査用紙は返送されてきていない。

本稿は、このマスンダ北地域で実施された「2000年度予備調査」結果の集計と分析、考察である。紙幅の関係で、差し当たり「小規模農民」に関する集計・分析・考察にとどめざるを得なかったことをお断りする。なおこの調査には、上記NGOに対する日本国外務省の「平成14年度国際開発協力民間公益団体補助金」が一部使用されていることを付記する。

1. 調査概要

- (1) 調査期間：2002. 9. 17～10. 5
- (2) 調査地点：ジンバブエ共和国マシング州マシャバ村マスンダ北学区
- (3) 調査対象者：同上学区に居住する農民およびその構成

種別	地域名、地点名	調査対象者内訳
小規模農民	マシャバ地域	小計 40
	ムシャンディケ北地点	28
	ジェニヤ地点	12

小作農民	マスンダ北地域	小計 36
	チグメ地点	3
	コレラ地点	3
	ムホンデ地点	1
	ペネメネ地点	1
	ンツヴィヨ地点	2
	その他地点	26
農業労働者	マシャバ地域	小計 25
	マグウィズィ地点	8
	アレンヴァレ地点	12
	チパト地点	5
合 計		101

面接調査対象者は、該当する種別に属する学区内に居住する農民を、必要数だけ抽出して面接した。前回予備調査（2001. 6. 7に実施された、「調査用紙第1部、第2部」による調査）と同一調査対象者にすることに努めたが、不可能な場合は、同一地区・同一地点から対象者を抽出することにした。

- (4) 調査方法：調査用紙（本調査の場合、別紙「調査用紙 第3部」）に基づく面接調査。
- (5) 調査員：マスンダ北小学校教員9名
- (6) 事前説明：前回調査の結果明らかになった問題点を説明し、調査「マニュアル」をもとに、調査のねらい、調査の方法、とりわけ未記入・誤記入を防止するための点検の必要について、念入りに説明し要請した。当日の調査の直接指揮は、マスンダ北小学校校長マジンギラ氏であった。（注6）

2. 「小規模農民」(Small Scale Farmer) について

(1) 設問1の「小規模」の意味であるが、「質問紙第3部」を作成する段階では、設問3-11-9にあるように、

「非常に小さい」…20ヘクタール（50.4エーカー）未満
「中規模」……………21～100ヘクタール（50.4～240エーカー）
「大規模」……………101～200ヘクタール（240～480エーカー）

と種別区分していた。しかし、自らが「小規模農民」に種別化されるものと自覚している農民が、実際に所有している土地の面積は、7.5エーカー（3.1

ヘクタール) から660エーカー (275ヘクタール) まで広い範囲にわたっている。

したがって、「小規模」「中規模」「大規模」の種別区分意識は、かなり広い広がりをもった意識であるということができよう。つまり実際に所有している土地の面積で見ると、全体40名のうち7名 (17.5%) が「中規模」「大規模」であるが、残りの82.5%が「小規模」であるということになる。(注7)

(2) 設問2-2は、栽培穀物とそれぞれに対応する作付け面積に関する問いである。栽培作物 (栽培者実回答数、%) は、「とうもろこし」(40, 100) 「落花生」(38, 95) 「ラウンドナッツ」(31, 77.5) 「ソルガム」(14, 35) 「綿」(10, 25) 「ソラマメ」(10, 25) 「野菜」(8, 20) 「ひまわり」(6, 15) 「トマト」(6, 15) 「ラポコ」(5, 12.5) 「きび」(4, 10) 「たまねぎ」(1, 2.5) 「えんどう」(1, 2.5) である。

「とうもろこし」と「落花生」はほとんどの農家が栽培している。ついで「ラウンドナッツ」を栽培している農家は、このグループ全体の4分の3である。残りの作物は、全体の3分の1以下の農家しか栽培していない。(注8)

問2-3は、所有農地の利用区分 (%) に関する問いである。選択肢は「自作」「小作」「菜園」「不使用」「その他」である。「小作」と答えた者はいないので、何らかの土地利用をしている場合は「自作」ということになるはずである。その意味では選択肢の設定が正しくなかったのであるが、回答者は、「菜園」「その他」を「自作」から分けて回答してくれたようである。ただ「菜園」ということで何を理解しているのかは、もっと具体的にハッキリさせる必要がある。我々日本人のそれとはかなり異なる。ここでは「菜園」は、「耕作面積」の中に入れて扱うことにする。(注9)

全体として土地所有面積の広い者 (35~660エーカー、12名) は、「不使用」の比率が高かったり「その他 (牧草地)」の比率が高かったりする。しかし、自分を「小規模農民」と自覚する者の中で、90%以上の土地を「自作」としている者は、実数で27名比率で67.5%である。70%以上90%未満の土地を「自作」とする者は、実数で7名率で17.5%である。残りの6名15%が、「自作」の面積が70%未満ということになる。20~30%程度の土地しか「自作」としていない者4名10%は、すべて100エーカー以上の土地を持ち、しかも「不使用」及び「その他 (牧草地)」の率が高い。つまり、「小規模農民」の大半は、「牧草地」を除くと30エーカー (12.4ha)

程度までの土地しか栽培用に使用していないということである。したがって、30エーカー程度が、「小規模農民」が家族で営農する場合の耕作可能面積の上限ということなのであろう。

さらに、「不使用」の面積を20%以上としている者が、10名25%もいることに注意したい。とりわけ半分近くの土地を「不使用」としている者が、3名いる。これは、使用に適さないから使用しないのか、それとも何か別の理由があって使用しないのか、さらに調べる必要のある点であらう。

「牧草地」についても、他の使い道がない土地であるということなのか、それとも作物耕作地として使えるのだが、人手が足りないその他の理由で「牧草地」ということになっているのか、より詳しく調べてみる必要がある。(注10)

(3) 設問2-4は、1996年から2000年までの過去5年間の農業収入についての問いである。一口で言うと、実に多様な農業収入の状況になっているということである。農民の農業収入は、耕作地の「面積」と「灌漑設備」の有無によって大きく左右されると思われる。したがって、これら二つのファクターとクロスさせて農業収入を見てみることにする。

① 比較的「耕作面積」の広い (22.5~48.5エーカー。「不使用」と「牧草地」を除く。)、したがって「自作」面積比率のやや低い (25~70%) 11名27.5%の者は、「灌漑設備」を持っていないということである。これは何故なのか。「灌漑設備」を持つことが、農民の収入増を可能にするはずなのに、何故持たないのであろうか。「灌漑設備」なしでも、つまり12月~4月までの雨期だけの農業で何とかやれるから必要ないということなのか、それとも「灌漑設備」を持つだけの経済的余裕がないということなのか。それに比べて、「耕地面積」がやや狭い (7.5~15エーカー)、したがって「自作」面積比率の高い (75~100%) 者は、全員が「灌漑設備」を持っているということである (調査対象になった「小規模農民」全体の中の「灌漑設備」所有者数・率は、23名57.5%)。しかも「灌漑設備」は、設問2-5によると、18名78.35%が90%以上の耕作地に使用していると回答している。さらにこれらの者のうち13名57%が、地代を払っている (設問3-11-10)。したがってこれらの者は、「小規模農民」というよりも政府から「灌漑設備」つきの土地の再配分を受けて (地代が有償の場合と無償の場合がある) 農業を始めた「新農民」とでも言うべき者で、種別区分から言うと「小作農民」に入れるべきなのかもしれない

い。(注11)

② 一般的に言って、「耕地面積」の多い者が多くの「収入」を得「利益」も多くなっているが必ずしもそうならないケースも少なくない。このことは何を意味しているのか。とりわけ「収入」や「利益」は、「灌漑設備」の有無によって大きく左右されるであろう。「灌漑設備」があれば、長い乾期の間でもあるいは雨が殆ど降らなくてもそれさえうまく活用ができれば、作物を栽培することが出来るのである。したがって、「耕地面積」が狭くても「灌漑設備」があったから「耕地面積」はより広いが「灌漑設備」を持たない者より多くの「収入」「利益」を得ることが出来たということなのか、それともそうではないのか、また両者の境界が何処にあるのかなどを、詳しく調べてみる必要がある。そうしない限り、このデータだけからより立ち入った何らかの主張を引き出すことは難しい。

③ 同じような「耕地面積」に同じような作物を「灌漑設備」をも利用して栽培しても、「赤字」になっている場合がいくつか生まれている。何が原因でそうになっているのか。「赤字」の場合を個別に見ると、「収入」より「経費」が多くかかって「赤字」になってしまうケースが多いようである。そこでその原因として想像されるのは、「種子」「農薬」や「化学肥料」の価格の問題であり、それに比した生産物の「価格」の問題である。「種子」「農薬」や「化学肥料」の価格が高くて「農産物」の価格がそれを補って余りあるものであれば、「赤字」にはならない。「赤字」であるということは、「農産物」が、そのような価格になってないことをも示しているということである。(注12)

④ 「赤字」にならない場合でも、同程度の「耕地面積」「灌漑設備」ありで「収入」や「利益」に大きな開きがあるのはなぜか。「耕地面積」「灌漑設備」のほかに農業経営に大きな影響を与える要素として、「農薬」と「化学肥料」の利用の問題がある。ところが、「農薬」(設問2-7)も「化学肥料」(設問2-9)も殆どの者が使用している。したがって、これらの利用の有無が「収入」や「利益」の大小を決めている訳でもないのであろう。調査項目には入っていない、農民の農業技術、農業機械、農業経営とりわけマーケティングを考慮した栽培作物の選定・作付け面積の調整・流通手段(輸送、販売など)、土地の肥沃度などを含めたより詳細な調査が必要であるということであろう。(注13)

⑤ ジンバブエは現在物価上昇率が150%と言われ

る。人口の約50%、600万人が「飢饉」に苦しんでいるという(WFP)。とりわけ貧しい人々が、物価上昇に苦しんでいる。主食であるトウモロコシは勿論、塩、砂糖、食用油といった基礎的食品が、長い列を作って待たないと手に入らない。ファーストフードショップでの「4分の1チキン」がZ\$500程度はする(2002年9月)のに、年間「利益」が数百ジンバブエドル(Z\$)でどうやって生きてゆくのかということである。最低限の基礎的食品を除き殆ど自給自足の生活をして、年間1000~2000ジンバブエドル程度の農業収入しかない最も「利益」の少ない農民層では、日常生活そのものがひどく困難であろうと想像される。しかもこれが、一般的には最貧層ではないとされる「小規模農民」の現実なのである。(注14)

(4) 問2-5は、「灌漑設備」に関する問いである。回答者39名中「あり」が23名(57.5%)で、「なし」が16名(42.5%)である。但しこの「あり」の場合の意味である。「あり」を、大規模商業農場主がやっているような、地下水をモーターで汲み上げてコンピューター制御のスプリンクラーで散水する「灌漑設備」を想像してはいけないであろう。せいぜい、雨期の雨水を蓄えておくための、川水をせき止めるための小さなコンクリートの堰で作られた灌漑用の池と見るのが妥当であろう。この池から自分の畑までは、人の力か家畜を利用して灌漑用水を運ぶのである。したがって「なし」は、雨期の雨水利用しかできないという意味であろう。(注15)

この点での今後の課題は、この「なし」層を減らしてゆくことと水運搬の労役を何とか軽減してやることである。ジンバブエは、充分ではないにしても電気が作れる。しかし貧しい農民達には幹線送電線から自宅まで電線をひく経済力、使用した電力料金を支払うだけの経済力がない。電線も電力料金も必要ないしかも移動にも便利な例えば太陽電池利用の揚水ポンプなどは、農業用池から灌漑用水を畑に供給するのに、大変好都合な装置である。飢饉対策にもなる農業援助として、農業用溜池作りと太陽電池利用の揚水ポンプ援助は、検討するに値するプロジェクトであると思われる。(注16)

設問2-6は、前問で「灌漑装置」を「あり」としている場合に、「耕作地」の何%に灌漑しているかを問うものである。「あり」としている大部分の者が、1999年以降におそらく土地の再配分を受けて「新農民」になった3名を除き、「91%以上」に灌漑していると答えている。つまり灌漑している者23名

中20名が、「91%以上」の「耕作地」に灌漑をしていることになる。(注17)

(5) 設問2-7(複数回答)は、使用している「肥料」に関するものである。「化学肥料」を使用しているとする者が38名95%、「有機肥料」を使用しているとする者が34名85%である。つまり大半の者が、「化学肥料」及び「有機肥料」を両方とも使用していることになる。しかし、より詳しく見ると、6名は「化学肥料」だけしか使用せず、2名は「有機肥料」だけしか使用していない。

(6) 設問2-8(複数回答)は、「有機肥料」を使用している34名にその訳を尋ねている。多い順に見てゆくと、「入手が容易」が28名80%、「伝統」が21名60%、「自然環境保護」が13名37%、「付加価値」が11名31.4%、「持続可能な農業」が10名28.6%である。つまり「有機肥料」の使用が、「自然環境保護」や「持続可能な農業」につながるし農作物に「付加価値」を与えることになるという自覚を、30%前後の者が持っているということである。したがって、約30%の者は、「自然環境保護」や「持続可能な農業」という点で問題があることは分かっている、しかし「化学肥料」を使用しているということである。(注18)

(7) 設問2-9は、「農薬」の使用に関する問いである。「農薬」を「使用する」とする者は、35名87.5%、「使用しない」とする者は、5名。12.5%である。「使用する」が圧倒的多数を占める。設問2-10は、「使用しない」場合の理由を問うものである。「使用しない」を選択した者は、わずか5名であり、「化学肥料」とのアナロジーで言えばもっと多くても良いはずなのに、逆に半分かくらいに減ってしまう。しかも「使用しない」理由は、「高価」が3名、「持続不可能」が1名、「不必要」が1名である。「健康」「自然環境」「商品価値下落」などを選択した者はいない。色々問題はあっても、現実には農薬なしの農業は考えられないということになっているようである。(注19)

(10) 設問2-11は、農業に関するさまざまな「困難」に関する問いである。設問2-11-1は、農産物の「価格」について尋ねている。農産物の「価格」が「安定している」とする者はおらず、「不安定である」とする者が90%、「どちらともいえない」が10%である。設問2-11-2は、農産物の「流通」について尋ねている。「流通」が「良い」とする者は5%しかおらず、「普通」が40%、「悪い」が52.5%、「その他」が2.5%である。

設問2-11-3は、「農業機械の供給」について尋ねている。「十分」とする者が5%、「普通」とする者が2.5%、「不十分」とする者が80%、「どちらともいえない」とする者が10%、「その他」が2.5%である。

設問2-11-4は、「農業の生産性」について尋ねている。「高い」とする者が5%、「普通」とする者が45%、「低い」とする者が50%である。

設問2-11-5は、「農産物の販売設備」について尋ねている。「良い」が7.5%、「普通」が25%、「悪い」が55%、「どちらともいえない」が12.5%である。

設問2-11-6は、「農業経営」について尋ねている。「良い」が17.5%、「普通」が40%、「悪い」が37.5%、「どちらともいえない」が5%である。

全体としてみると、「価格」の「不安定」や「農業機械の供給」の「不十分」をあげる者が、圧倒的に多い。ついで約半数の者が、「農産物の販売設備」の「悪さ」及び「流通」の「悪さ」さらには「農業の生産性」の低さをあげる。「農業経営」については、約3分の1の者が「悪い」としているが、「良い」とする者も20%弱いる。

設問2-11-7は、「農薬及び化学肥料の使用」について尋ねている。「望ましい」とする者は60%、「望ましくない」とする者は27.5%、「どちらともいえない」が12.5%である。

設問2-11-8(複数回答)は、「(農薬、化学肥料なし)堆肥だけによる農業」について尋ねている。「人間の健康に取って望ましい」が35%、「自然環境にとって望ましい」が30%、「どちらともいえない」が35%、「やり易い」が22.5%、「伝統」が2.5%である。

以上をまとめると、「農薬及び化学肥料の使用」を、約3分の1の者が、「人間の健康」「自然環境」という点で「望ましくない」としている。にも関わらず、既に(7)(9)で見たように、殆どの者が「農薬」も「化学肥料」も使用しているのが現実である。(注20)

(11) 問3-11-9は、対象者が使用する「農業用地」の広さの区分を尋ねている。「非常に小さい」が72.5%、「中ぐらい」が17.5%、「大きい」が7.5%、「その他」が2.5%である。同じ「小規模農民」に属するという意識をもちながら、わずかな土地しか持たない者から「大規模農民」並の土地を持つ者まで、広い範囲に渡ってこの農民達は分布している。

(12) 設問3-11-10は、「借地料」についてである。

現在の「借地料」を、「高い」とする者が53.8%、「借地料なし」とする者が46.2%である。

ここで注意したいのは、53.8%の者が「借地料」を払っているということである。つまり、「借地料」を払っている土地は、自分の土地ではないはずであるが、その土地で自分用の作物を栽培している訳である。したがって調査用紙は、「借地」の部分を加えて記入できるものにしておくべきであった。然しながらこの調査用紙は、そのことを考慮したものになってはいない。この点は、本調査の段階で改められる必要がある。(注21)

(13) 設問 3-11-11は、対象者のジンバブエでの「経済的地位」について尋ねている。「豊か」が2.5%、「なんとかやっと生きられる」が72.5%、「貧しい」が25%である。つまり「小規模農民」は、殆どの者が「なんとかやっと生きられる」程度以下の生活をしていると思っている。

(14) 設問 3-11-12は、過去10年間の子どもの「就学困難」についての問いである。「たくさんあった」が41%、「そんなに多くはないがあった」は12.8%、「若干あった」は25.6%、「なかった」が20.6%である。つまり、全体の80%の者が、何らかの形で子ども達の就学困難の問題にぶつかったと答えている。

(15) 設問 3-11-13は、過去10年間の子どもの「学校中退」に関する問いである。「たくさんあった」が35.1%、「そんなに多くはないがあった」は10.8%、「若干あった」は18.9%、「なかった」は32.4%、「その他」は2.8%である。つまり全体の3分の2の者が、何らかの形で子ども達の「学校中退」の問題にぶつかったということである。

(16) 設問 3-11-14 (複数回答) は、前問における「学校中退」の理由について聞いている。

「通学距離」をあげる者が44%、「通学時間」をあげる者も44%、「授業内容」をあげる者が4%、「授業料」をあげる者が96%、「その他」(食糧、親の病気、本人の病気)をあげる者12%である。つまり、「授業料」が納められなくて子ども達が「学校中退」という例が大半であるということである。しかもそれに輪をかけて、「通学距離」「通学時間」の困難が加わって「学校中退」になっているということである。(注22)

3. 考 察

「2000年度予備調査」の全体からみれば、まだその一部に過ぎない「小規模農民」についてのものに限られるが、いくつかの特徴点について考察してみよう。

(1) 「小規模農民」と「小作農」の区別は何かということについて、まず考えてみる。ジンバブエの小学校教員達、ジンバブエ大学の研究者達にとっては、所有する土地の面積と「借地料」を払って農業をやっているのかどうかということが、両者の区別のポイントであった。しかし農民達の意識の実態は、かなりそれとは異なる。一般的に言って、「小規模農民」の土地の方が「小作農」の土地よりやや広いが、殆ど同じ「面積」の土地しか持たない者も多い。「借地料」をとっても、「小規模農民」の53.8%が「借地料」を払っており、むしろ「借地料」を払っていない「小作農」の比率60.6%の方が高い。したがって当然のことでもあるが、「収入」や「利益」をとっても両者の間に余り大きな差はない。しかし両者とも、自分たちの所有する土地は「小規模」であり、「経済的地位」としては「貧しい」と考えているということである。そしてかなり多くの者が、子ども達の「就学困難」(79.5%)「中退」(67.6%)に直面させられてきている。

ここには、ジンバブエ農業の問題点が、集中的に現れているともいえる。「小規模」といっても、日本の農民の所有する農地「面積」に比べればかなり「広い」。したがって、「灌漑設備」を導入・利用して、より集約度の高い農業生産を行うなら、農産物そのものの「生産性」を飛躍的に高めてゆく可能性がある。その現実化のためには、「灌漑設備」の導入・利用法、農薬・化学肥料の使用法、有機農業の導入を含む農業技術の向上、農機具の導入・改善、そして何よりも農業経営改善の必要がある。増産された農産物が農民の「収入」「利益」増に結びつくかどうかは、流通の問題にも大きく関わっているので、国内外における農産物流通のための条件整備・改善のための諸施策が、おそらくは欠かせない。

(2) ジンバブエは今日、旱魃による飢饉に苦しんでいる。飢饉が生じる背景は単純ではない。しかし、サハラ以南のアフリカ諸国は絶えず旱魃による飢饉に襲われてきた。少々雨が降らなくても飢饉にならなくてすむ農業が可能にならないといけない。そのための条件は、わが国の経験を見るまでもなくかなりハッキリしているように思われる。ところが、こ

の条件整備が進まない。ジンバブエは、サハラ以南のアフリカ諸国の中では経済インフラがかなり整備されている国とされる。しかし、現在飢饉で苦しむ中小零細農民が利用可能な「灌漑設備」の整備・流通のための条件整備が、なかなか進まない。飢饉対策という意味でも、これらの農民に対する「草の根的な援助が今日必要になっているといえる。

(3)「農業機械」については、多くの農民(80%)が「足りない」としている。しかしこのことは、「大規模商業農民」の場合のように大型農業機械が必要ということでは必ずしもない。中・小型の使いやすい農業機械があれば、余り広くない農地でも農業機械を効率的に運用して生産性の高い集約型農業ができるということである。もっとも日本の場合のように、年間数日しか使わない農業機械を、個人購入する必要はないであろう。リースでの集団利用が可能な利用形態を、工夫する必要がある。

(4)「農業」「化学肥料」の使用については、その便利さとともにその有害性についての一定の認識があるようである。しかし、大部分の農民がそれを知りながら両方とも使用している。農業使用は、先進国の消費者を含む都市消費者が、農産物の「外見」のよさを求めるからである。自給用は勿論、とりわけ先進国に輸出する農産物栽培には、手がかかって、かなり厳格な国際的な認証基準に従う無農薬有機農産物生産の導入を考慮する必要があるであろう。化学肥料は、農地の肥沃度を決定的に低下させる。土壌中を含む農地の生態系を維持・発展させることにつながる有機肥料の生産・使用を考慮した農業が求められている。そのためには、家畜の飼育・利用による堆肥作り、植林による落ち葉を利用した腐葉土作り等も活用される必要がある。

(5) 農産物「価格」の安定化策は難しい。国内的には、都市地域住民(消費者)の安定した需要にこたえることのできる、農産物の流通ルートを形成することである。そのためには、都市の流通業者と提携した農業生産者の計画的な農産物生産・供給の体制を作ることである。国際的には、WTO体制のもとで、先進国に圧倒的に有利な国際農産物市場を相手に、農産物輸出を考えてゆかなければならない。しかし先進国の側も、途上国の側が自国の中・小零細農民の経営を守るための一定の保護策を取ることを、認めてゆかなければならない。そうしなければ、先進国の側が、テロ攻撃におびえながら、結局のところは飢饉に陥った零細農民に対する無償食糧援助活動にいつまでも取り組まなければならない状態が

続くことになる。

(6)「就学困難」「中途退学」は、中・小零細農民のところで、経済的社会的な意味での「貧困」から起こっている。「授業料」を納めることが出来ないから「中退した」とする者が、大半である(96%)。ジンバブエは建国以来教育を重視し、当初は「授業料」はなしであった。ところが、その後の国家財政逼迫の中で、授業料を取ることにししかもその額を値上げしてきている。年間農業「利益」が1000ジンバブエドルもない家庭で、一人250ジンバブエドルの授業料を払わなければならない。ほかに「制服」の着用を義務付けられている。「制服」が買えないから学校に行けないという子どもも少なくないのである。義務教育課程の「授業料」は無料に戻すか、貧しい家庭に対する「授業料」免除制度を導入することが考えられる。そのほか各種の就学援助金制度の導入とか、税の減・免制度の導入とかも考えられる。それらの手が打たれることなく放置されているのが、ジンバブエの現実である。

【注】

1. 「エコークラブ」、本部連絡先：462-0065名古屋
市北区喜惣治1-179、Tel：052-902-5150
Fax：052-901-6575。一般的には、ユニセフなどは、「貧困」が「就学困難」や「中退」の原因になっていることを指摘してきた。しかしその詳しい状況は、国によりまた親の属する階層によりさまざまである。
3. ジンバブエ側の「協会」には、大学の研究者のほかに、調査員であるカドマ市内の公立小学校教員12名ほど、マスンダ北小学校の教員9名が加わる。事務局長は、カドマ市内の公立小学校校長であった。しかし、二つの小学校は350km離れており、燃料代の高騰もあり、合同で会議を持つことは困難であった。また大学の研究者も首都ハラレ市内(カドマ市から150km、マスンダ北から約400km)に住み、小学校教員たちと合同の打ち合わせ会を持つことは簡単ではなかった。事務局長一家のイギリス移住により、「協会」の役員交代が必要になっている。
4. 当初は、面接時の使用言語として現地語(ショナ語)の使用も提案したのであるが、現地大学関係者は「表現が一定しない」ということで採用しなかった。しかし成人識字率の問題もあり、公用語である英語だけでどこまで通じるのか不

安があった。ところが調査員たちとの反省会(2001年8月)では、その点についての問題指摘は特になかった。しかし、それ以上に問題であったのは、2001年7,8月に実施した調査用紙を見ると、未記入や誤記入が多数見られたことである。事前の説明の際には、そのことに注意するようには言っており、実際の調査開始直前には、調査に関する「マニュアル」も渡しており、ジンバブエ大学の教員がそのような注意を含む調査に関する説明をしてくれるものと思っていた。しかし、後で聞くと、それはなされていなかった。「社会調査」は、小学校の教員たちにとってはもちろん大学の研究者にとっても、慣れないことであったのかもしれない。2002年9月の調査では、岩淵がそのことを含めて調査員の教員たちに前もって詳しく注意しておいたせいか、誤記・未記入は少なかった。

5. ジンバブエ「協会」事務局長一家のイギリス移住により、2001年7,8月に実施した調査用紙のうち、マスンダ北地区の約20部が行方不明である。2002年8月訪問時に、あるはずであるとされたところは判明したが、その本人に問い合わせても2ヶ月たった今なお返答がない。
6. マスンダ北での2002年9月の調査は、面接対象者を前回(2001年7,8月)に準じて抽出してもらうはずであった。前回の標本抽出は、大体「農業労働者」50名、「小作農民」25名「小規模農民」25名であった。ところが、実際に行われた調査数は「農業労働者」25名、「小作農民」36名、「小規模農民」40名であった。今回は、岩淵もジンバブエ大学の研究者も、調査の現場に立ち会うことはできなかったのであるが、肝心のところが正確に実施されることにならないことが少なくない。
7. 農民の土地所有の規模と耕作地の形態による種別区分、つまり「小作農民(Peasant Farmer)」 「小規模農民(Small Scale Farmer)」という区分は、どうもあまり厳密なものではないようである。両者の間には余りはっきりした境界がなく、「大規模商業農民(Big Commercial Farmer)」から区別される「共同体農民(Communal Farmer)」を構成するということのようである。
8. 吉田昌夫は、「アフリカでは植民地時代から外国人への土地譲渡を制限したところが多かったため・・・プランテーション農業の発展に限度

があり、食糧自給を主な目的とする小農民が輸出をも担ってきた。」と書いている。(吉田、小林、古沢編『よみがえるアフリカ』日本貿易振興会、6ページ)ジンバブエは、ローデシア時代からイギリス系白人の入植が進み、白人の「大規模商業農民」が肥沃な農地の85%を所有してきたといわれる。そのことによって黒人農民が豊かな農業経営に参加できなくされてきたという一面と、逆にこれら白人たちが「とうもろこし」「綿花」「葉タバコ」「落花生」といった換金性の高い作物を生産輸出し、外貨を稼いだというもう一面がある。ジンバブエの現政権は、それら白人たちから土地を無償接収して黒人たちに再配分し、自分たち黒人が豊かな農民になる道を求めるとともに、先進諸国の輦轡を買って事実上経済封鎖の憂き目に遭うことになっているのが現実である。

9. 日本では、「とうもろこし」も「落花生」も「ソラマメ」などもみな「野菜」に入れてしまう。しかしジンバブエではどうもそうではない。岩淵が現地農家の「菜園(Gardening)」に案内されて確認したのは、「ねぎ」「にんじん」「キャベツ」「トマト」などである。したがって、「野菜」とか「菜園」の概念についても、より正確な把握が必要なようである。
10. 「牧草地」は、Paddockである。『旺文社英和辞典』によると、「(おもに英) {うまや近くの} 牧場」である。ジンバブエは全体として花崗岩台地なので、いたるところに花崗岩が露出している。そのこともあって畑作には向かない、牧草地としてしか使用できない土地ということなのか、もっと良く調べる必要がある。
11. 面接対象者が自分で、自分自身をNew Farmerと述べたと記入してある。この人々は、たとえば現政権が白人農場主から無償接収した農地の一部を、再配分されて農民になったということなのかどうか、その点を確かめる必要がある。
12. 「赤字」の解釈も難しい点である。「経費」として考えられるのは、さしあたり「種子」「農薬」「化学肥料」の購入費用である。この「赤字」が、ここ2,3年の100%を超える物価上昇のせいで生まれたということなのか、「農業経営」になれていなくて「赤字」を出したということなのか。2000年度に「赤字」が数多く見られるところを見ると、前者によるのかもしれない。しかしそれにしても「赤字」を見越した「経費

- 削減策」などはどうなっているのでしょうか。
13. これらは、より専門的な「農業経済学・経営学」的調査の必要な点である。
 14. 飢饉に苦しむとされる「共同体農民」の居住地域を回ってみて思うことは、難民キャンプなどに見られる深刻な飢餓状態は目撃できないということである。年間1000~2000ジンバブエドルの農業収入しかなくても、自給自足生活を送れば現金はそんなになくとも生きてゆくことができるということであろうか。敗戦後の日本では、都市生活者は食べ物がなく難渋したが、農村生活者は豊かな自然の恵みに恵まれ、なに不自由なく過ごすことができた事態に似ているのであろうか。
 15. 実際に農村を回ってみてわかるのは、雨期の雨水をためておいて、長い乾期の間に少しずつ使ってきていると思われる小さなため池風のもものが、各所にあるということである。川も、砂でうずまってはいるが、1.5mほど砂を掘るとききれいな地下水がすぐに湧いてくる。つまり砂のすぐ下を川水が流れているのである。この地下水の利用には比較的最近気づいたようで、それを利用した小さな菜園が川筋沿いにたくさん作られるようになっていく。もっとも、これはこのような地下水位をもつ川にのみ可能なのであろうか。
 16. 砂でうずまっている川の地下水位の高さの利用を考えて、2002年8,9月のジンバブエ訪問時に、太陽電池と揚水ポンプのセットを持参した。若手農民を集めて、その利用法を説明し、配線・運転の実習もやり、それを用いて川沿いの農地にやや規模の大きい「菜園」を作り経営してみることを提案した。現地からの報告によると、川沿いの5つの村から推薦された若手農民10名がチームを作り、「菜園」経営に取り組んでいるという。問題は、この地域の農産物の需給関係を考慮した農作物生産が、どのようにしたら可能になるかということである。市場動向調査とそれに基づく作物および作付け時期の選定が、難しいが大切になる。
 17. ほとんどの「耕作地」に灌漑を利用しても、灌漑を利用していないケースとあまり変わらない「収入」「利益」しか上がらないのはどうしてであろう。灌漑の利用の仕方に問題があるのではなかろうか。もっとも、人力や家畜の力による灌漑ということだと、灌漑利用にもおのずと限度が生じてくる。いずれにしても、もっと厳密な調査をしないと良くわからない点である。
 18. 「化学肥料」が、「自然環境保護」や「持続可能な農業」という点で問題があるとわかっているのに、使用しているのはなぜか。「化学肥料」が地力を減退させ土地の肥沃度を低下させてゆくことを知っているにもかかわらず使用を止めないのは、施肥が楽だからである。したがって、農民にとって必要なことは、「有機農業」の持つ積極面に関するより深いより前向きな理解を進めることである。一時的な効用（「楽だ」）ではなく、より持続的な効用についての正確な理解を持ち、都市地域にすむ消費者を説得する力をも身に付けることであろう。
 19. 「農業」については、ある意味では「化学肥料」以上にその問題性が明らかになってきている。「農業」は農作物を病害虫から守るために導入され利用されてきたのであるが、病害虫に有害なものは人間にとっても大なり小なり有害である。病害虫にとっては有害だが人間にとっては無害なものなどというものがあるのであろうか。農作物の「病気」とか「害」とか言われるものについて、改めて考え直さないといけない。本当は「害」ではなく「無害」の証なのかもしれない。ジンバブエの農民たちは、先進国の農民たち以上に「農業」の有害性について良く知らないがために、期待を込めた過大な評価を持っているのかもしれない。
 20. わが国の農民の場合も、良く似た状況にあるといえよう。農民も消費者も、「農業」や「化学肥料」に問題があるとわかっているのに、目先の利益のために使用してしまうし、購入してしまう。わが国の場合は、最近とみに残留農薬の厳しい検査と検査結果の公開が進み、消費者からの監視も厳しくなっている。ジンバブエの場合も、厳しい残留農薬基準を設定して情報公開し、消費者によるチェックを受けられる体制を作る必要がある。
 21. 「借地農民」と「小作農民」はどうも違うのかもしれない。当初の我々の区分は、「小規模農民」＝「自作農」、「小作農民」＝「借地農民」という含みを持っていた。しかし、「小規模農民」にも「借地農民」がおり、「小作農民」にも「借地」を持たないつまり「自作農民」がいる。Peasantには、a Peasant Proprietor (or Farmer) という使い方で、「小自作農」という

意味もあるという（『旺文社英和中辞典』、SOED）。したがって、Peasant Farmerは「小自作農」、Small Scale Farmerは「中自作農」という訳語が適切で、「借地」の有無とは直接関係ないのかもしれない。「借地」は両者にあるということである。

22. 2001年6,7月段階の「授業料」が、一人250ジンバブエドル程度であった。したがって、就学期の子供が何人かいると、貧しい農家のわずかの現金収入がほとんど「授業料」に消えてしまうことになる。「就学困難」「学校中退」といった困難のもっと詳しい実態調査は、2001年6,7月の「教育調査」で実施している。詳しくはその報告を参照願いたい。

資料「調査用紙、第3部」

各調査員に、調査員名、調査日、地域名地点名の記録を求める。

Questionnaire for Educational and Agricultural Research

Part 3: About Agricultural Economy

Q1. What is your role in the farming community?

1. Large commercial farmer ()→Please go to Q2-1・・・Q2-11-8
2. Small scale farmer ()→Please go to Q2-1・・・Q2-11-8, Q3-11-9
・・・Q3-11-14
3. Peasant farmer ()→Please go to Q2-1・・・Q2-11-8, Q3-11-9
・・・Q3-11-14
4. Farm laborer ()→Please go to Q5-1・・・Q5-11
5. Others ()→Please go to Q6-1・・・Q6-10

Q2. If you are a "Large commercial farmer"(Q1), please give some basic information about yourself?

Q2-1. What is your land surface belonging to your property?
() acre

Q2-2. What are crops and the respective area under cultivation? Please explain giving details if necessary?

	Name of crops	Respective area under cultivation
1.	()	() acre.
2.	()	() acre.
3.	()	() acre
4.	()	() acre
5.	()	() acre
6.	()	() acre
7.	()	() acre

Q2-3. What is the rate of allocation for the respective Agricultural land use?

	% of Respective land use
1. Farming by yourself	() %
2. Tenancy	() %
3. Gardening	() %
4. Without utilization	() %
5. Others	() %

Q2-4. What are your achievements and estimation of annual income only from farming (including Tenancy and Gardening) during past 5 years?

	Annual income (Z\$)	Necessary Expense (Z\$)	Net Profit (Z\$)
1. 1996	()	()	()
2. 1997	()	()	()
3. 1998	()	()	()
4. 1999	()	()	()
5. 2000	()	()	()

Q2-5. Do you have Irrigation System ?

1. Yes ()
2. No ()
3. Others ()

Q2-6. In the case of "Yes", what is the percentage of the land-surface utilizing irrigation system per the utilizing total?

	1996	1997	1998	1999	2000
1. ・・・1 %	()	()	()	()	()
2. 2 ・・・5	()	()	()	()	()
3. 6 ・・・10	()	()	()	()	()
4. 11 ・・・15	()	()	()	()	()
5. 16 ・・・20	()	()	()	()	()
6. 21 ・・・30	()	()	()	()	()
7. 31 ・・・50	()	()	()	()	()
8. 51 ・・・70	()	()	()	()	()
9. 71 ・・・90	()	()	()	()	()
10. 91 ・・・	()	()	()	()	()

Q2-7. What kind of fertilizer do you use?

1. Chemical fertilizer ()
2. Organic fertilizer (e.g. cattle manure) ()
3. Without fertilizer ()
4. Others (Please explain.) ()

Q2-8. In the case of "organic fertilizer", why do you utilize Organic fertilizer? It is because this is

1. Traditional ()
2. Easy to get and less-expensive ()
3. For the protection of natural environment ()
4. For Sustainable Agriculture ()
5. For the value added of agricultural products ()
6. Others (Please explain) ()

Q2-9. Do you utilize agricultural chemicals?

1. Yes ()
2. No ()
3. Others ()

Q2-10. In the case of "No", why don't you utilize agricultural chemicals? It is because they are

1. Harmful to people's Health ()
2. Harmful to natural environment ()
3. Not sustainable for agriculture ()
4. Unnecessary ()
5. Traditional ()
6. Reducing value of agricultural products ()
7. Expensive ()
8. Others (Please explain) ()

Q2-11. What do you think about the difficulties of agriculture?

- Q2-11-1. The prices of agricultural products are
1. Stable ()
 2. Unstable ()
 3. Difficult to determine ()
 4. Others (Please explain) ()

Q2-11-2. Distribution of agricultural products within my district is

1. Good ()

2. Moderate ()

3. Bad ()

4 Others (Please explain.) ()

Q2-11-3. Supply of agricultural machines is

1. Sufficient ()

2. Moderate ()

3. Insufficient ()

4. Difficult to determine ()

5. Others (Please explain.) ()

Q2-11-4. Agricultural productivity is

1. High ()

2. Moderate ()

3. Low ()

4. Difficult to determine ()

5. Others (Please explain.) ()

Q2-11-5. Arrangements for selling agricultural products are

1. Good ()

2. Moderate ()

3. Bad ()

4. Difficult to determine ()

5. Others ()

Q2-11-6. Is the management of agricultural economy

1. Good ()

2. Moderate ()

3. Bad ()

4. Difficult to determine ()

5. Others (Please explain.) ()

Q2-11-7. Is the use of agricultural chemicals and chemical fertilizer

1. Desirable and properly done. ()

2. Undesirable but properly done. ()

3. Difficult to determine. ()

4. Others. ()

Q2-11-8. Agriculture using cattle manure without agricultural chemicals and chemical fertilizer is

1. Difficult. ()

2. Difficult but desirable for future human health. ()

3. Difficult but desirable for the Protection of Natural Environment. ()

4. Easy. ()

5. We should go back to the traditional agriculture. ()

6. Others. ()

Q3. In the case of "Small scale farmer"(Q1), please give us some basic information about yourself?

Please go back to Q2-1 . . . Q2-11-8.

Q3-11-9. The land that you use for farming is

1. Very small . . . Less than 20ha ()

2. Medium size . . . 21 . . . 100ha ()

3. Large . . . 101 . . . 200ha ()

4. Others ()

Q3-11-10. The amount of rentals you pay for the land is

1. High ()

2. Moderate ()

3. Low ()

4. Nothing ()

5. Others (Please explain.) ()

Q3-11-11. What do you think of your economical status in your country?

1. Rich ()

2. Just enough to survive on ()

3. Poor ()

4. Others ()

Q3-11-12. Do your children find it hard to enter school during past ten years?

1. Yes and many times. ()

2. Yes but not so many times. ()

3. Yes but only a few. ()

4. No. ()

5. Others. ()

Q3-11-13. Have your children ever dropped out from school during past ten years?

1. Yes and many times. ()

2. Yes but not so many. ()

3. Yes but only a few. ()

4. No. ()

5. Others. ()

Q3-11-14. Why have your children dropped out from school?

1. Distance to go to school. ()

2. Time to go to school . ()

3. Contents of schooling. ()

4. Management of class. ()

5. Students' relationship. ()

6. School fee and expenses for school education. ()

7. Children are subjected to child labour. ()

8. Others. ()

Q4. In the case of "Peasant farmer"(Q1), please give us your basic information about yourselves?

Please go back to Q2-1 . . . Q2-11-8, Q3-11-9 . . . Q3-11-14.

Q5. In the case of "Farm Laborer"(Q1), please give us your basic information about yourselves?

Q5-1. Do you transfer personally?

1. Yes. ()

2. No. ()

3. Case by case. ()

4. Others. ()

Q5-2. In the case of "Yes" and "Case by case", please give us all the names of countries where you might transfer from and to in a year?

	Previous Country	→	Zimbabwe	→	Next Country
1. Yes	()		()		()
2. Case by case	()		()		()

Q5-3. Have you ever had difficulty when you want your children to enter school?

1. Yes ()

2. No ()

3. Others ()

Q5-4. What kind of difficulty have your children ever had?

MA

1. Distance to go to school. ()

2. Time to go to school. ()

3. Contents of schooling. ()

4. Management of class. ()

5. Students' relationship. ()

6. School fee and expenses for School Education. ()

7. Children are subjected to labor. ()

Q5-5. In the case of "No", how have you enabled your children to enter school?

1. Partial entering school only within their family stay at this school area. ()

2. Leaving the children at relative's home in this school area. ()

3. Leaving the children at the home of friends in this school area. ()

4. Others. (Please explain.) ()

Q5-6. Have your children dropped out of school during past 5 years? Please write and check into the bracket in the case of "Yes".

Sex	Age	1996	1997	1998	1999	2000	2001
1. 1st child	()	()	()	()	()	()	()
2. 2nd Child	()	()	()	()	()	()	()
3. 3rd Child	()	()	()	()	()	()	()
4. 4th Child	()	()	()	()	()	()	()
5. 5th Child	()	()	()	()	()	()	()
6. 6th Child	()	()	()	()	()	()	()
7. 7th Child	()	()	()	()	()	()	()
8.							

Q5-7. What do you think about the reason for dropping out of school?

1. Distance to go to school. ()

2. Time to go to school. ()

3. Contents of schooling. ()

4. Management of class. ()

5. Students' relationship. ()

6. Children are subjected to labor. ()

7. Transfer of my family. ()

8. Others. ()

Q5-8. How can you overcome the difficulties of entering school and dropping caused by your family transfer?

1. Changing the way of farm laborer's life. ()

2. Improving the necessary conditions for these children's school life. ()

3. Improving the economical social conditions of these transferring farm laborers. ()

4. Others. (Please explain.) ()

Q5-9. In the case of "Changing the way of farm laborer's life", what are the necessary conditions for that? MA

1. To give some land property on which they could settle permanently. ()
2. To give them a right for Tenancy. ()
3. To give training to have some skills so that people could become economically independent farmers. ()
4. To train individuals to be independent farmers. ()
5. To fund people in order to prepare for their new challenges. ()
6. Others. (Please explain.) ()

Q5-10. In the case of "Improving school life conditions", what kind of conditions should be prepared for?

1. Dormitory or boarding facilities. ()
2. Financial Assistance for Temporal Foster Parents during the absence of parents. ()
3. Improvement of conditions for transferring school enrollment. ()
4. Improvement of cooperative communication about Transfer among schools. ()
5. Introduction of a new type of school for transferring people. ()
6. Others. (Please explain.) ()

Q5-11. In the case of "Improving economical social conditions of farm laborers", what should we do for them? MA

1. To improve the conditions for employment of them. ()
2. Hike of minimum wages. ()
3. Talk to them about the necessity of entering school. ()
4. Introduction of financial supporting system for school enrollment. ()
5. Tax should be reduced so that parents can afford to pay school fees. ()
6. Government should subsidize school fees. ()
7. Others. ()

Q6. In the case of "Others"(Q1), please give us your basic information about yourselves.

Q6-1. What kind of Group are you belonging to?

1. Single man or woman with the experience of marriage. ()
2. Physically handicapped. ()
3. Retired Civil Servant. ()
4. Retired Teacher. ()
5. The aged with disability. ()
6. Ethnic minority. ()
7. Others (Please explain.). ()

Q6-2. What is the reason of being one parent now?

1. Divorce. ()
2. Death of partner. ()
3. Disappearance of partner. ()
4. Not-married. ()
5. Others. ()

Q6-3. In the case of "Divorce", how many family members do you have?

- | | |
|-----------------|------------------------|
| 1. Total number | () |
| 2. Male | Adult () Children () |
| 3. Female | Adult () Children () |

Q6-4. What are the sources of income for your family's daily life?

1. Small gardening. ()
2. Part-time job. ()
3. Collecting firewoods. ()
4. Collecting wild vegetables and wild animals. ()
5. Child labor. ()
6. Raising livestock. ()
7. Others. (Please explain.) ()

Q6-5. Do you have some difficulties of entering your children in a school?

1. Yes ()
2. No ()
3. Others ()

Q6-6. In the case of "Yes", what is the reason for that?

1. Distance to go to school. ()
2. Time to go to school. ()
3. Contents of schooling. ()
4. Management of class. ()
5. Students' relationship. ()
6. Transfer of family. ()
7. School fee and expenses for School Education. ()
8. Children are subjected to labor. ()
9. Others. ()

Q6-7. Have your children ever dropped out of school during past 5 years?

1. Yes ()
2. No ()
3. Others ()

Q6-8. In the case of "Yes", what is the reason for that?

1. Distance to go to school. ()
2. Time to go to school. ()
3. Contents of schooling. ()
4. Management of class. ()
5. Students' relationship. ()
6. Transfer of family. ()
7. School fee and expenses for School Education. ()
8. Children are subjected to labor. ()
9. Others. ()

Q6-9. In the case of "School fee and expenses for School Education.", how can you overcome these difficulties?

1. Financial assistance for entering school targeted to single parent. ()
2. Special reduction of school fee targeted to single parent. ()
3. Expansion of opportunity of employment for single mother. ()
4. Expansion of opportunity of vocational training for single mother. ()
5. Offering the opportunity of Adult Education for overcoming illiteracy. ()
6. Others. (Please explain.) ()

Q6-10. In the case of "Children are subjected to labor."How can you overcome these difficulties?

1. Improvement of single mothers' economical conditions. ()
2. Reduction of economical burden for entering school or charging fewer fees. ()
3. To improve gardening to raise income. ()
4. To improve raising livestock so as to produce income. ()
5. To build and equip nursery schools. ()
6. To introduce electricity. ()
7. Others. (Please explain.) ()

The end of Part 3